

私たちがみなさんのまちを応援します！

～地域コミュニティパワーアップ事業が開始されました～

■地域コミュニティパワーアップ事業とは？

現在、市内の多くの地域で、お住まいのみなさんがまちづくり活動や商店街の活性化に取り組んでおられます。しかしそのような地域では活動が活発になるほど、人手や専門的なノウハウの不足に悩まされています。神戸市ではそのような地域の活動を支援するため、今年の5月より、地域コミュニティパワーアップ事業を実施しています。

この事業は地域のまちづくり活動に携わっているコンサルタントなどの団体が、半年という限られた期間ながら、まちづくり活動に興味がある人を雇用し、まちづくりの場に派遣することで地域のまちづくり活動のバックアップをしてもらおうというものです。

7月までに事業の実施を受託したコンサルタント等8社とこうべまちづくりセンターで13名の方が新規雇用されました。また8月にもう1名雇用される予定です。

■ワークショップ隊とは？

また、この事業で雇用された皆さんは、それぞれが派遣された地域の支援のみならず、市内のあちこちで行われるワークショップの運営のお手伝いもします。派遣業務などはこうべまちづくりセンターで行って



ます。ひとつのワークショップに対して数名がお手伝いにいくので「ワークショップ隊」と呼んでいます。定例会で模擬ワークショップを行ったり、ペンの持ち方や字の書き方まで実際に練習しています。

7月3日には「第5回全国リサイクル商店街サミット」が開催され、早速ワークショップ隊の初出動となりました。ワークショップに参加されたのは全国か

ら集まった事業者の方々に、ワークショップにあまり慣れていない方が多く、進行役として「ワークショップ隊」が大いに活躍しました。

■活躍中のみなさんにインタビュー！

各地区に派遣され、また「ワークショップ隊」として活躍されている方々のうち、プランまちさとの観城千伽子さん、古家幸恵さん、瀬戸房子さんにお話を伺いました。

観城さん「新長田駅周辺でお好み焼き店の調査のため、町中を歩いて回っていますが、狭い路地の中に地域の人々の生活に密着したお店がいっぱいあることに驚きました。」

古家さん「新長田の商店街でイベントや事務のお手伝いをしています。新長田はとってもあったかくて、おもしろいところです。」

そして瀬戸さんはリサイクルサミットに参加して「商売人の皆さんがワークショップの型にはまらず活き活きと楽しく話をして、その情熱



に圧倒されました。」 イベントの打ち合わせに参加していますとの感想をいただきました。

また、都市調査計画事務所の佐野恵子さんは主に灘区の桜口・備後町3丁目地区のまちづくり活動のお手伝いをしています。7月27日に行われた「八幡の夜店」の準備中に「まちづくり協議会をはじめ、運営サイドの方々には皆非常に元気です。地域にお住まいの皆さんにも楽しんでもらえるか、期待と不安でいっぱいです。」とおっしゃっていました。

今回掲載できなかった皆さんの活躍についても案内していきたいと思えます。乞うご期待！

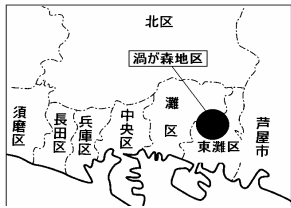
(住宅局地域支援課総括担当)

連載 「コンパクトタウンづくり」活動報告

第4回 渦が森地区（神戸市東灘区）

■渦が森地区について

渦が森地区は、東灘区の六甲山のふもとに位置する住宅地です。地区北側にある昭和40年前後に開発された標高300mを超える住宅地からの神戸港や大阪湾の眺望は格別で、街を取り巻く自然環境はきわめて良好です。しかし、造成された住宅地では入居から30年以上経ち、住民の高齢化、住宅の老朽化が一挙に進みつつあることに加え、診療所などの生活利便施設の撤退、並びに急な坂道が多いなどの地形的条件により、日常生活に様々な支障ができています。



しかし、造成された住宅地では入居から30年以上経ち、住民の高齢化、住宅の老朽化が一挙に進みつつあることに加え、診療所などの生活利便施設の撤退、並びに急な坂道が多いなどの地形的条件により、日常生活に様々な支障ができています。

■渦が森ふれあいまちづくり協議会の取り組み

そこで、渦が森ふれあいまちづくり協議会では、コンパクトタウンへの取り組みとして、まず、地域課題の整理を行いました。平成12年7月からアンケートやワークショップ形式で7回に及ぶ会合を開き、4つの課題を抽出しました。



平成12年7月からアンケートやワークショップ形式で7回に及ぶ会合を開き、4つの課題を抽出しました。

- ① 医療施設の問題（地域内に医療施設がない）
- ② 日常生活関連施設の問題（商業施設の減少など）
- ③ 交通問題（移動手段が市バス1系統しかない）
- ④ 若年層の地域活動などへの参加が少ない

このうち、若年層の地域参加を促すため、夏の盆おどりを活用して地域内のバンドチームや学生の参加、渦が森音頭の復活など趣向を凝らしています。これらの取り組みが継続的に実施できれば地域共通の話題となって世代間の交流もできるのではないかと期待しています。

その他、①イノシシ対策の検討、②人材バンクの創設、③地域通貨の導入などを行い、実施できるものから着手しています。

★最初の課題解決に向けて（イノシシとの共存）

この地区の住宅地にはイノシシが頻繁に出没し、ゴミを荒らされたり、庭を荒らされるなどのケースが目

立ってきました。これまでもイノシシ駆除などの対策を行ってきましたが、繁殖が上回り、数はなかなか減りません。そこで、渦が森の住民たちが、自ら積極的にこの問題に取り組み、解決していこうと、ワークショップを行いました。「イノシシとの正しいつきあい方を考える」をテーマにした3回の会合では、イノシシの生態を勉強し、出没マップづくりや防衛策などの検討を行い、その成果をまとめたパンフレットを作成しました。



また、市では、ワークショップの成果を参考に「神戸市いのししの出没及びいのししからの危害の防止に関する条例」を平成14年5月1日に制定し、イノシシ問題に対する住民の役割と市の役割を明確にしました。

今後は、ワークショップの成果と条例を基に、住民と行政が連携しあって上手なイノシシとの共存を実現していくことが重要です。



■渦が森ふれあいまちづくり協議会

委員長の永原隆憲さんのおはなし

渦が森は、自治会や婦人会、老人会など数多くの地域団体がありますが、各々の団体の横のつながりが少ないのが現状でした。そこで、ふれあいまちづくり協議会で特に広報活動に力を入れ、ふれまち新聞を発行しています。現在は徐々に連携ができ、わがまち意識を共有しつつあるのではないかと思います。



写真⑥

また、ワークショップにより抽出された課題はひとつひとつ解決していかなければならないと思っています。そのためには、色々な人のアイデアを活かしながら、我々住民自身で解決していくことが大切です。まちづくりは「信・簡・践（しんかんせん）」、すなわち、人と人との信頼の上に簡単なことから実践していくことであり、これからもこの言葉を銘として励んでいきたいと思っています。

まちづくりワークショップ・基礎講座 ーその3ー

1. 第1回ワークショップ<7月22日(日)>

第1回目の後半からは、いよいよ計画づくりの核心に近づいていきます。

<プログラム3～階段のようすを調べてみよう～>

実際に階段を見て歩くことにします。各グループにポラロイドカメラを1台ずつ準備しました。いつもよく使っている階段も視点を変えて注意深く見るといろいろな事が見えてきます。全員に配った**観察カード**には、「変われば



カメラを手に階段の現状を調査

いいところ」「残しておきたいところ」「子供の目線で」「少し離れて」「雨が降ったときは」「夜のようすは」などの視点を書いてあり、写真を2枚貼り付けてメモが書けるようになっています。みんな階段を上ったり、下りたりしながら、それぞれ写真を撮って観察カードを記入していきます。

<休憩 ～リフレッシュ&コミュニケーション～>

現地を歩き回ったあとは、まちづくり推進会が用意した飲み物をいただいて休憩。この日は、日差しの強い暑い1日で、汗を拭きながら、撮ってきた写真を見せあって話に華が咲きます。2時間を超えるワークショップでは、上手く休憩タイムを入れることも重要です。リフレッシュすると同時に、参加者のコミュニケーションを進めるプログラムのひとつでもあります。

<プログラム4 ～どんな整備がよいだらう～>

休憩のあとは各自で記録したカードを基に、どういう所が気になったか、どんな階段にしたいか自由にアイデアを出して、**KJ法**でまとめます。他のメンバーの発言に触発されて思いついたことなども、どんどんポストイットに書き込んでいきます。今回は進行役のリーダーに加えて、各グループに神戸芸術工科大学のメンバーにお手伝いに入っていたので、ちょっとしたつぶやきなども書き取ってもらうことができました。高齢の方が多い場合にはこのような**聞き取り方式のKJ法**も有効な手法です。グループごとの発表では「段差が大きすぎる」「全部をスロープに」「舗装のでこぼこの改修」「手すりがほしい」といった基本的な整備項目から、「階段の上にベンチがほしい」「花や緑の植栽がほしい」「外灯がほしい」といっ

た、あまり予想していなかった内容まで色々な意見が出されました。

<宿題 ～インタビューに挑戦しよう～>

最後に、宿題としてインタビュー用紙が配られました。これは、ワークショップに参加しなかった人たちにも意見を聞いてみるためのプログラムです。階段を使う頻度や改修するときを気を配って欲しい点など、少ない項目ですが次回のプログラムにつながるように工夫された質問になっています。宿題という形は、心理的な負担になって、次回への参加の意欲を失わせたりすることもあるので、できれば当日のワークショップの中でプログラムに組み込む（これを**突撃インタビュー**と呼んだりしています。）ほうがよいのですが、今回は全体の量が多くなってしまったので、推進会のメンバーの協力で別の日にインタビュー調査を行う方法を取り、気軽にできる範囲での宿題としました。

2. ワークショップの時間管理

最後に推進会の会長さんからのご挨拶で、この日は終了しました。盛りだくさんの内容で少々時間もオーバーし、予定通りに終わって欲しいと言った声も聞かれました。ワークショップでは、通常密度の高いプログラムを組むので、作業の進み具合によっては慌しくなったり、仕上がりを持って時間が延びたりしがちです。ゆとりあるプログラムで予定どおりに終わることも重要な要素で、第1回での反省点となりました。



観察カードを元に改善案を相談

3. 第2回ワークショップに向けて

さて、1回目のワークショップでは、いろいろな改修のアイデアが出されました。この中には物理的・技術的な観点で検討が必要なものや、実際に階段を管理する部局と協議が必要なものがあり、第2回までに整理をしなければなりません。より具体的な案づくりをするために、「できること」と「できないこと」を明確にすることが必要なのです。物理的・技術的な問題は検討の結果が明快ですが、管理上の問題を調整するのは、なかなか困難な作業です。今回のワークショップの裏方作業の中でも、もっとも気を使う部分です。

次回は第2回ワークショップ。階段の計画も主要部分の寸法やデザインの要素へと進んでいきます。

野田北部まちづくり協議会主催

平成 14 年度 地域活動推進講座 開く

協議会活動のより一層の活性化を目指す活動の一つとして、県民復興ネットの助成を受けて「地域はなにができるのか？参加と協働」をテーマにした地域活動推進講座を始めました。

第 1 回目は、7 月 14 日に開かれ、浅井協議会会長が、講師としてこれまでのまちづくり、特に震災直後の地域の様子やまちづくり協議会（当初は、震災対策本部）の果たした役割などから地域でのコミュニティの大切さを中心にお話されました。

参加者は、地区外の人を含めて約 30 名で会場の集会所がぎっしり埋まっていました。

今後の日程は、右記の通りです。

詳しくは、野田北部まちづくり協議会

(TEL&FAX 078-735-9388) まで

第 2 回 9 月 1 日 (日) 10:00~12:00

テーマ：ふれあい喫茶における

公営住宅住民とのコミュニティ

第 3 回 9 月 7 日 (土) 10:00~12:00

テーマ：地域コミュニティを

いかにして育むか

第 4 回 9 月 21 日 (土) 10:00~12:00

テーマ：まちづくりと専門家

第 5 回 10 月 12 日 (土) 10:00~12:00

テーマ：まちづくりの後方支援

第 6 回 10 月 13 日 (日) 10:00~12:00

テーマ：今 長田のまちは？

まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1 階オープンギャラリーの展示

8 月 1 日 (木) ~ 31 日 (土)	兵庫区南部のまちづくり	兵庫区まちづくり推進課
------------------------	-------------	-------------

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テ ー マ	主 催 者
8 月 22 日 (木) ~ 27 日 (火)	グループ w a 合同展 (水彩)	アサヒカルチャー河本教室
8 月 29 日 (木) ~ 9 月 3 日 (火)	麓和会洋画作品展 (油彩)	麓和会
9 月 5 日 (木) ~ 10 日 (火)	蒼鈴堂日本画自在展	中島 上総

すまい・まちづくりのご相談は

■すまい・まちづくり人材センター

(こうべまちづくり会館 3F)

電 話 078-361-4377 FAX

078-361-4584

受付は、月・火・木・金曜の午前 10 時~午後 5 時

■土・日・祝日は

事前にご連絡ください

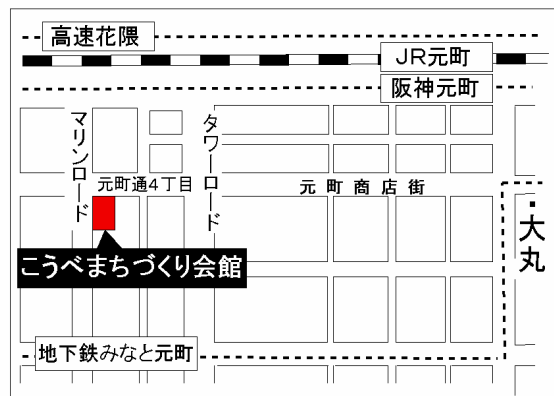
自治会活動などのご相談は

■コミュニティ相談センター (まちづくり会館 4F)

会報等の印刷サービスや自治会の相談 (インストラクター派遣など)

受付:午前 10 時~午後 6 時 (水曜・年末年始は休館)

電話 078-361-4565



最寄駅

地下鉄海岸線みなと元町駅西口から 1 分

高速花隈駅東口から 3 分

高速西元町駅東口から 5 分

JR・阪神元町駅西口から 8 分